京田辺市上下水道事業経営審議会（第４回）議事録

日時

令和元年７月２３日（火）午後１時３０分～午後４時

場所

京田辺市上下水道部事務所　２階　大会議室

出席者

山田会長、米田副会長、大嶋委員、山中委員、赤尾委員、益田委員、小長谷委員、太田委員、杉本委員、川嶋委員

（会長、副会長を除き、京田辺市上下水道事業経営審議会規程第２条に示す第１号委員から第３号委員の順、各号内で順不同）

欠席者

なし

事務局

伊東公営企業管理者職務代理者、大冨上下水道部副部長、上杉経営管理室担当課長、村上上水道課長、竹村下水道課長、尾﨑経営管理室企画経営係長

事務局補佐

株式会社日水コン３名

傍聴者

１名

議事

１　開会

２　挨拶

市長から挨拶

３　審議事項

（１）水道事業の投資・財政計画案について

第２回経営審議会の議事録について報告を行った後、事務局より定足数の確認を行った。

審議会の公開について、会長から各委員の了承を得た後、事務局から以下の内容を説明した。

- 第２回経営審議会の振り返り
- 水源計画の見直し
- 投資試算について
- 財政試算について
- 今後の方針について

【主な質疑】

（委　員）古い井戸の取水量はなぜ少なくなるのですか。

（委　員）井戸からくみ上げる際、周りの細かい砂などが集まってくるため、水が取りにくくなる。また、大量にくみ上げると、井戸周辺の地下水を吸い尽くし、周りの水脈からの補てんもゆっくりであるため、水が取りにくくなるということが考えられます。

（委　員）同じ場所で井戸を掘り直すのですか。

（事務局）井戸周辺の水をくみ上げると、どうしても砂やゴミなどで目詰まりしていきます。取水量が低下すると、周辺もしくは別の場所で堀替えを行うことになります。

（委　員）どれぐらいの期間で堀替えるのですか。

（事務局）水質にもよりますが、おおよそ２０年です。計画値に対して実際の取水できる量が低下してきたら、堀替えを計画するようにしています。

（委　員）普賢寺は５００ｍ^3／日と少ないが堀替える計画となっていますが、これはどのような理由なのですか。浄水場があるからということでしょうか。

（事務局）５００ｍ^3／日は同浄水場から供給する区域の水需要から設定しています。

（委　員）府営水は１２，５００ｍ^3／日が上限とのことですが、これはどのような理由で決まっているのですか。素人の考えでは、当面の水需要増加には府営水を増加することで対応し、長期的な水源として井戸を堀替えていけばよいのではないかと思うのですが。

（事務局）井戸と府営水の両方を使うことで安定した供給を行いたいという考えです。また、南部では今後も開発計画があるため、そのための水源としても１２，５００ｍ^3／日の府営水が必要と位置づけています。

（委　員）資料の８ページでは、府営水が２０１８年度まで１２，２００ｍ^3／日、２０１９年度以降が１２，５００ｍ^3／日となっています。この違いは何ですか。
（事務局）この３００ｍ^3／日の差は、木津川市に融通している水量です。
（委　員）融通する水量に対して料金をいただいているのですか。
（事務局）京都府営水道からの受水には、使用量に関わらず支払う建設負担料金と使用量に応じて支払う使用料金があり、融通分だけ建設負担料金を減額させてもらっています。
（委　員）過去からの経過、ケース分けした更新需要を示し、金額からみてケースＢが妥当であるという説明だったかと思います。確かに金額は安くなっていますが、それだけでは説明不足ではないでしょうか。
（委　員）安いからよいのではないでしょうか。ケースＢは使用実態による設定となっています。
（委　員）更新周期（案）で使用実態を考慮しているのは、電気関係が大半となっていますが、どのようなものが対象となっているのですか。
（事務局）ポンプを動かすための受変電設備や運転等を制御するコンピュータ類などがあります。
（委　員）３０年が標準なのでしょうか。
（事務局）経済産業省の耐用年数ではもっと短い期間だったかもしれませんが、周辺の事業体をみると、３０年程度は使用している実態があるため、このように設定しています。
（委　員）延命化して使用するということは、メンテナンス費用が掛かると思うのですが、それは見込んでいるのでしょうか。
（事務局）一部の部品を交換することで延命化を図っています。このような費用は修繕費として見込んでいます。
（委　員）ケースＢは妥当だと思います。ただし、更新費用を削減できますが、その代わりにメンテナンス費用が増えるので、更新費用削減の部分だけを強調するのはどうかと思います。最終的にそのような点がわかるように表現していただければと思います。
（委　員）費用が削減できるといっても、それは施設の老朽化につながっているので、ケースＡかケースＢかと簡単に決められるものではないと思います。話は変わりますが、送水管のスペックダウンと書かれていますが、今後水需要が減少する中、どのタイミングでスペックダウンを行うのでしょうか。
（事務局）次に管路を入れ替えるときにスペックダウンしたいと考えてい

ます。それは、当初想定していた１人当たり給水量に対して、実際はそこまで増えていない部分を考慮したものとしてスペックダウンが可能と判断しています。

（委　員）財政に関しては、基金残高が残ってしまうということが論点だったかと思います。これからの経営を考えると安易に水道料金値下げという訳にはいかないと思います。２つある基金を今の状態のままとするか１つにするかということと、収益的収支の不足に対して基金を取り崩したいという話でした。

（委　員）収益的収支の不足額に料金調整基金を使い赤字が発生しないようにしたいということですが、基金は非現金支出として内部留保資金に回すということでしょうか。

（事務局）基金は現金支出であり、単純にそれを取り崩して収益的支出の不足額を穴埋めしたいということです。実際は内部留保資金を先に取り崩すかもしれませんが、今基金運用の方向性を考えておかないといざというときに何も考えていませんでしたでは済まされないと考え、提案させてもらっています。繰り返しになりますが、料金調整基金は契約の受水量と実際受水した水量の差を埋めるために取り崩しており、近年契約水量に近づいていることから取り崩し額が減ってきているということです。建設基金の方は、拡張事業に対する財源や企業債を借りた場合の元金償還金分を対象にして取り崩していましたが、拡張事業が減少し、企業債残高も少なくなってきたことから基金残高が減らない状況となりつつあります。

（委　員）事業のあり方が変わってきたため、それに合わせた基金運用を考えていきたいということですね。

（委　員）内容は理解しましたが、議論すべき材料が足りないと思います。財政の仕組みの中で、こうしたらここに影響するというのがわかるようにして欲しい。メリット・デメリットについて提示していただきたい。とりあえず提案は受け止めました。

（委　員）基本水量は何m^3でしょうか。

（事務局）０m^3です。

（委　員）１３ｍｍは今後なくなるのではないですか。

（事務局）１３ｍｍを使っている古い建物が建て替えない限り残り続けます。また、マンションなどでも管理組合が清掃用等で１栓引く場合に１３ｍｍを使用されることもあります。当面なくなるということはないと思います。

（委　員）水道料金は、使用量が増えると単価が高くなっていますが、そ

れはなぜですか。

（委　員）生活に必要な最低限の水は公益性があり安くあるべきですが、洗濯機など水を大量に使う機器が増え、もっと水道を使いたいという世の中になったものの、水資源には限りがあります。京都府営水道も延々と管路を整備して水道水を供給しており、整備には多額の費用を必要とします。そのため、水道料金は逓増制となっています。ただし、最近では使用量の多い需要者が地下水専用水道に切り替えたりするため、全国的に逓増度を緩やかにしようという議論が増えてきています。

（２）下水道事業の将来像・目標の設定、実施方策の検討、投資財政計画案について

事務局から以下の内容を説明した。

- 第２回経営審議会の振り返り
- 将来像・目標の設定
- 実施方策の検討
- 投資・財政の見通し
- 今後の方針

【主な質疑】

（委　員）水道の計画では、南田辺西・東地区の開発に対応することが明記されていましたが、下水道ビジョンには記載がないのですか。

（事務局）学研都市建設等の開発はありますが、開発主体により下水道整備を予定しているため、本市としては整備事業がありません。このため、本日の資料には記載していません。ただし、整備後の維持管理は必要となりますので、最終的なビジョン冊子にはその点を記載していきたいと考えています。

（委　員）京都府の流域下水道の受け入れについては、了承が得られているのでしょうか。

（事務局）本市から要望は上げています。

（委　員）資料の２４ページでは料金改定率が３６％や４１％と書いてあります。この数値だけをみると驚いてしまいます。

（委　員）３６％や４１％の料金改定をすると、今の下水道料金がどうなるのでしょうか。

（事務局）最終的には料金体系も含めて見直したいと考えているため、現時点では料金がいくらになるとお答えすることはできません。

まずは単純に収入として足りない額を示させてもらっています。

（委　員）料金改定でどのような層に配慮するか考えないといけないでしょう。子育て世代とか。

（事務局）水の使い方も変わってきていますので、なるべく節水したことが見える形の料金体系にしたいと考えています。

（委　員）今よりも細かい使用量別で料金設定し、全体的に４１％増やすのであれば、公平性もありますよね。

（委　員）料金改定に伴って一般会計から収益的収支に繰入れる３億円がなくなるので、その３億円を市がどのように使うかも市と一体となった議論の対象となるのではないでしょうか。

（事務局）料金改定によって収益的収支の不足分は穴埋めされますが、実は現在減価償却費として蓄えられる内部留保資金を全て資本的収支の不足額に充当しており、ほとんど資金のない状態となっています。このままでは、減価償却が終わったときに資金が残らないことになりますので、料金改定後も資本的収支の不足額に対して一般会計からの繰入れが必要となってきます。

（委　員）収益的収支の不足を解消したい。料金体系を水道と合わせたいという基本的な考えはわかりましたが、それを対外的にどう説明するか。もっと節約するようにと言っても限界があります。非常に高い改定率なので、激変緩和措置等も考えてほしい。とにかく料金体系もみると、より分かってくるのではないかと思いますので、本日は結論を出さずに会議を終了したいと思います。

４　今後のスケジュールについて

事務局から説明

５　　公営企業管理者職務代理者挨拶

公営企業管理者職務代理者から挨拶

６　閉会

以上